

国語 第1学年 なんて いおうかな

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「なんて いおうかな」 教材名「なんて いおうかな」

2 単元の目標

丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。〔知識及び技能〕(1)キ)
身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア)
場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。〔知識及び技能〕(1)キ)
〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)
〔主体的に学習に取り組む態度〕①場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える。この教材では、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。想定する難しさは、発表の内容を丸暗記させる、全員に同じ大声を要求する。評価では、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいるかを、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教師作成の学校生活の場面で、伝えたいことと相手を確認する。評価：学習状況を見て支援する。
第2次 第2時（本時）：○教師作成の学校生活の場面で、伝えたいことと相手を確認する。言葉を選んで声に出し、聞き手が受け取った意味を返す。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。

○「この相手には、どんな言葉と声で伝えたいですか」

【めあて】場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える。

予想される児童の反応：・近くの友達なら大声はいらない。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「この相手には、どんな言葉と声で伝えたいですか」

教師作成の学校生活の場面で、伝えたいことと相手を確認する。言葉を選んで声に出し、聞き手が受け取った意味を返す。

聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。

予想される児童の反応：・近くの友達なら大声はいらない。

・大事なところはゆっくり言いたい。

・聞く人を見て話すと伝わったか確かめられる。

指導上の留意点：教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。

想定する難しさ：発表の内容を丸暗記させる、全員に同じ大声を要求する。

評価では、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいるかを、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。

予想される児童の反応：・聞く人を見て話すと伝わったか確かめられる。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この相手には、どんな言葉と声で伝えたいですか」。中央は、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

